■編集・発行　NPO法人 大谷石研究会
〒321-0345　栃木県宇都宮市大谷町1249
（株式会社とちぎテラス内）
TEL028-678-2720　FAX028-678-2740
http://www.ooyaishi.org/
mail:info@ooyaishi.org
編集責任者　佐藤 公紀

大谷石研究会では、会員の募集をしています!

入会の資格は、年齢、性別、職業、地域を問いません。
「大谷石が好きだ!」という事だけです。
現在、20代から80代の約120名の会員がいます。
年会費は個人会員4,000円、特別会員10,000円です。
入会希望者は、左記の事務局へ問い合わせて下さい。

大谷石研究会

NPO法人大谷石研究会 役員改選のお知らせ

この度の役員改選において、永見正明副理事長･髙橋啓子事務局長･和田昇三専門委員会委員長･坂本湛子理事の4名が退任されることになりました。髙橋さん和田さんには顧問として、今後も見守って頂くことになりました。新役員には副理事長に和氣文輝理事、事務局長に田村紀夫さん、新たに佐藤光弘さん、高橋卓さんが理事に新任される予定です。退任される理事の皆様、長い間ご尽力いただきまして、誠にありがとうございました。

大谷石研究会設立25年と共に

事務局長　高橋啓子
（有限会社高橋佑知商店取締役）

西暦2000年の秋、伊藤利光氏に遭遇「大谷石に関しての資料がある」との事で、早速四人で訪問、初代理事長小野口氏、初代会計加藤氏、発起人山口勇氏と私である。そこには私達が必要としていた資料が整然と分類され書棚に並んでいた。

伊藤氏の指示のもと、40名の発起人を集め発足。同時に「大谷石百選」の出版が課題となりました。発起人の中から宇都宮大学教授の小西敏正先生、栃木県建築士会会長の岡田義治先生の両氏に監修を依頼、海老原忠夫理事と共に東奔西走、渡辺慶子副理事長の指導の下、設立5年目にして「大谷石百選」を刊行、同時にNPO法人としての登録を完了。

退任するにあたり、この研究会に事務局として係れ、多くの事を学ばせていただきました。既に鬼界に入られました先輩の皆様には畏敬の念を抱かずにはいられません。初代理事長の後任として見事に研究会を開花させた塩田前理事長、2023年秋には「大谷石未来へ」を刊行20年の集大成とも言える事業でした。そこには現在3代目理事長佐藤公紀氏と和田昇三委員長が共に奔走されました。

いつしか当研究会は私のシンクタンクとなり、この二五年は私の終生の宝となりました。

メンバーの皆様に感謝!!

大谷石の文化遺産を次世代へ

専門委員会委員長　和田昇三
（足利大学名誉教授）

約20年前大谷石研究会に入会し、専門委員会に入りさまざまな活動をしてきましたが、その中でも「大谷石塀の被害に対する声明」が最も記憶に残っています。当声明は東日本大震災（2011年）の地震発生後に起こった「大谷石塀は地震に弱い」という風評に対して発表したもので、「大谷石塀は安全」ということを被害調査と工学的知見をもとに記しており、今もなお「声明」の意義は大きいと考えています。

2012年に本研究会が宇都宮市より景観整備機構指定団体の認定を受けたのを機に、「街道集落」の調査を開始しました。その数は「徳次郎町西根集落（2012年）」から「逆面地区集落（2023年）」調査まで6集落に及んでおります。調査をきっかけとして、市民の間に、集落の保存に関する気運が醸成されつつあり、今後も集落の調査と保存活動を続けてほしいと考えています。

以上は、在任中の代表的な活動であり、そのほかを挙げればきりがありませんが、これら専門委員会のさまざまな活動の成果は、事務局の多大な支援と会員有志の協力の賜物であります。退任を機に、この場を借りて謝意を表します。最後に、大谷石の文化遺産を次世代へ継承して行くため、研究会の皆様のさらなるご尽力を期待しております。

会員紹介

「大谷石への想い」

NPO法人大谷石研究会 会員　佐藤左恵子
（特別支援学校　教諭）

高校時代の恩師で、考古学者でもある塙静夫先生の講演会をきっかけに、休日の楽しみとして令和4年から歴史散策を始めました。令和5年の博物館連続講座を受講して、職場が大谷地区、社会科の教員である私は、日本遺産の大谷石文化をもっと知りたい、楽しみたい、伝えたいと思うようになりました。

講座で石屋根についてのお話を伺った数日後、通勤路にあった石屋根が道路拡張のためになくなってしまうという出来事がありました。どんなものでも永遠に存在するのは難しいことです。寂しさもありますが、なくなる前にその存在を知ることができ、記憶に残せて良かったという思いがこみあげてきました。我が家の周辺でも、大谷石の塀や蔵のある家が多く、東日本大震災で壊れた部分も修理して、大切に使われています。形ある大谷石のもつ、作った人の思いや歴史的背景など目に見えないエピソードに魅力を感じています。最近では、散歩しながら今まで同じ大谷石だと思っていたものにも様々な種類があることに気がつくようになりました。研究会に参加するたびに新しい知識が得られるので、日常生活に楽しみと彩りが増えました。これからも身近な大谷石に心を寄せて、こめられた思いや願いに触れていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。